

2020年1月23日

IT運用の自律化を加速し、企業のデジタル変革に貢献する 統合システム運用管理「JP1 V12.1」を提供開始

業務停止の事前回避やクラウド混在環境の集中管理による運用業務のさらなる負荷軽減と、
業務手順の可視化・標準化による RPA 化の全社展開を促進

株式会社日立製作所（以下、日立）は、IT 運用の自律化を加速し企業のデジタル変革に貢献する、統合システム運用管理「JP1」の最新版である「JP1 V12.1」を1月31日から順次提供開始します。今回、業務停止リスクの早期把握による事前回避や、オンプレミスとマルチクラウドの混在環境の利用により複雑化する各種業務システムの集中管理を可能とし、IT 運用業務のさらなる負荷軽減を実現します。加えて、RPA 化の妨げとなる人手による確認・判断部分などを含む一連の業務手順を可視化・標準化することで、RPA を活用した業務自動化の全社展開により既存業務の効率化を促進し、企業のデジタル変革に貢献します。

近年、デジタル変革が企業の成長を左右するという認識が浸透し、AI や RPA、IoT などの新たなテクノロジーを活用した既存業務の変革や、クラウドを活用した新サービスによる顧客体験（カスタマーエクスペリエンス）向上への取り組みが拡大しています。一方で、最先端のデジタル技術を担う人財の育成・確保が喫緊の課題となっており、IT 部門は、運用業務の負担軽減によるデジタル人財への転換や各部門の既存業務の効率化など、デジタルシフトへの支援が期待されています。

日立は、2019年1月より、IT 環境全体の可視化や RPA 連携による業務プロセスの自動化を促進する「JP1 Version 12」を販売してきました。今回提供開始する「JP1 V12.1」においては、業務停止リスクの事前把握やクラウド混在環境の集中管理などを可能とする各種機能を強化しました。また、日本電気株式会社との協業^{*1}に基づく2つの新製品「JP1/IT Process Operations for RPA」および「JP1/IT Process Operations」を、既存製品と連携させることで RPA の全社展開の促進を実現します。具体的な強化ポイントは以下の通りです。

*1 2020年1月23日発表「NEC と日立、RPA 運用最適化など運用管理ソフト分野における協業を拡大」

<https://www.hitachi.co.jp/New/cnews/month/2020/01/0123.html>

■「JP1 V12.1」の主な強化ポイント

1. 業務停止の事前回避やクラウド混在環境の集中管理などにより、運用業務のさらなる負荷軽減を実現

(1) 業務停止リスクの早期把握による事前回避や、障害影響範囲の特定による障害対応の負荷軽減と迅速化

IT 運用業務の中でも緊急度や属人性が高い障害対応の負荷を軽減するため、業務実行の停滞状況の自動検知と、業務を実行するインフラの稼働状況の統合運用画面への表示を可能としたことで、業務停滞要因の特定を容易にしました。これにより、IT 運用者は業務停止のリスクを早期に把握し停止を事前に回避できます。また、障害発生時には、後に続く業務への影響を把握しつつ、原因の切り分けや対処が行えるなど、障害対応の負荷軽減や迅速化を実現できます。これらは、業務の自動化を制御・監視する「JP1/Automatic Job Management System 3」の検知機能の強化、および、発生する事象と稼働情報など各種データとの関連性を管理可能なイン

テリジェント統合管理「JP1/Integrated Management 2」とリソース監視ツールの連携画面の強化などにより実現しました。

さらに、障害パターン別の対処の自動化や、IT 運用向け AI^{*2} を活用した複雑な人の判断の AI 学習による運用の自律化の推進も可能です。

*2 IT 運用における AI 活用のノウハウや技術を実装したもの。「IT 運用最適化サービス」で提供。

(2) クラウド混在環境など、複雑化する各種業務システムの集中管理を実現

「JP1/Integrated Management 2」の統合運用画面において、オンプレミスとクラウドの構成・運用状況と稼働するアプリケーションを関連づけて表示できるほか、環境ごとに異なる監視ツールを直接操作することも可能です。これにより、複雑化する各種業務システムを集中管理でき、問題発生時の影響範囲の把握や対処を迅速化できます。

また、IT インフラを監視する「JP1/Operations Analytics」において、近年注目されているコンテナ環境^{*3}に対応し、各アプリケーションが稼働しているコンテナ・IT インフラを関連付けてリアルタイムに表示可能としました。これにより、アプリケーションの可搬性が高い反面、稼働状況が把握しにくいコンテナ環境においても、障害対応の負荷軽減や迅速化を支援します。

*3 コンテナの配置・設計・運用を行う Kubernetes に対応。

2. 各部門の業務手順の可視化・標準化により、RPA を活用した業務自動化の全社展開を促進

RPA 化の妨げになりやすい人手による確認・判断部分を含む業務も、一連の業務手順を示すフローチャートと各ステップの作業手順書を PC 画面上で利用できるように整備することで標準化できます。これは、PC 上でフローチャートに沿ったナビゲートが可能な「JP1/Navigation Platform」と、PC 作業を記録・可視化でき、作業手順書の作成と管理が容易な「JP1/IT Process Operations」を組み合わせることで実現するものです。これにより、RPA 化されたステップを含む一連の業務手順を可視化・標準化でき、RPA 化の全社展開による既存業務の効率化を促進します。また、RPA 導入前の自動化手順検討や導入前後の作業比較などが可能な「JP1/IT Process Operations for RPA」によって、RPA 導入の効果測定なども可能とします。さらに、PC 作業の自動化を制御・監視する「JP1/Client Process Automation」など既存の JP1 製品と各社 RPA 製品の連携^{*4}により、RPA の運用の効率化も可能です。

*4 JP1 と主要 RPA 製品との連携実績

<http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/jp1/feature/rpa/index.html>

今後も日立は、JP1 と IT 運用向け AI や IoT 向け運用管理などのサービスを拡充することで運用の自律化を加速し、企業のデジタル変革に貢献していきます。

主な強化製品の価格と提供開始時期

名称	概要	価格（税別） ^{*5}	提供開始時期
JP1/Integrated Management 2 - Manager	IT 環境にあるさまざまなデータから、目的別に必要な情報を関連付けてリアルタイムにわかりやすく可視化する製品	600,000 円～	1 月 31 日
JP1/Automatic Job Management System 3 - Manager	業務を決められた順序で、スケジュールに従って自動実行する製品	270,000 円～	
JP1/Operations Analytics	IT インフラとアプリケーションを監視し分析を支援する製品	360,000 円～	
JP1/Client Process Automation	RPA が実行する定型業務などクライアント環境における業務を自動化する製品	98,000 円	3 月 31 日
JP1/IT Process Operations	PC 作業手順を可視化し、作業手順書作成・管理などを支援する製品	後報 ^{*6}	
JP1/IT Process Operations for RPA	PC 作業手順記録や RPA 導入効果の測定を支援する RPA 導入支援ツール	後報 ^{*6*7}	

*5 表示価格は買い取りタイプ。サブスクリプションタイプ（年間契約）での提供も可能です。

*6 価格は 3 月に Web サイトで公開予定。

*7 サブスクリプションタイプのみ提供予定。

関連する Web サイト

- ・ 統合システム運用管理「JP1」
<https://www.hitachi.co.jp/jp1/>
- ・ JP1 V12.1 で注目すべき「システム全体のインテリジェントな IT 運用」
https://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/soft1/jp1/feature/intelligence_itop/index.html

商標注記

- ・ JP1 は、株式会社日立製作所の商標または登録商標です。
- ・ Kubernetes は、The Linux Foundation の日本、またはその他の国における商標または登録商標です。
- ・ その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

お問い合わせ先

株式会社日立製作所 サービスプラットフォーム事業本部 アプリケーションクラウドサービス事業部

<https://www.hitachi.co.jp/it-pf/inq/NR/>

以上